

# 日本英語教育史学会 会報

## 308

2022 年 4 月 12 日

**HiSELT** *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

 事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562  
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室  
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191  
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)

ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873

ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト [www.hiset.jp](http://www.hiset.jp)

## 第287回研究例会報告

2022 (令和 4) 年 3 月 19 日 (土), 第 287 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 22 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 平井清子氏 (北里大学) による「英千里編 高校教科書研究—台湾と日本の繋がりとその背景にあるもの」の発表が行われました。続く「自著を語る」では, 指定討論者に馬本勉氏 (県立広島大学) を迎え, 山田昌宏氏 (本学会会員) が『私の歩み』(喜寿記念論文集) の発表を行いました。前半の司会は江利川春雄氏 (和歌山大学名誉教授), 後半は馬本勉氏 (県立広島大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は平井氏, ②は山田氏及び馬本氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

◇ ◇ ◇

&lt;発表 1 の感想&gt;

◆①これまでの積年のご研究の上に, 日本における英語教科書との影響関連や接点を明らかにされたことに敬服いたしました。今後の課題として言及されていた, なぜ当該出版社なのか, 当該教科書なのか等を追求いただき, 研究手法についても後進のためにお示しいただければ幸甚です。ありがとうございました。(might)

◆①題材への鋭い切り込みに刺激を受けました。ハーンの「怪談」を再読してみたいと思います。(久保野雅史)

◆①「なぜその題材が教科書題材として使われたのか」をさぐる手立てとして編集者の人物像をさぐり, 「〇〇で学んだことがある」や「出版社に〇〇という趣向がある」という事実から説明を試みる手法を学びました。他方, その他の説明の仕方にどのようなものがあるのかをさらに知りたいと思っております。また, そもそも「説明」とは何か (少なからず歴史学と社会科学では異なる使い方をする時があると言われておりますが...) も再考したいと思います。今後のますますのご発展を楽しみにしております。(孫工季也)

◆①現在も台湾の情勢は不安定の中での内容だったので知らないことが多かったですが有意義な時間を過ごせました。(吉村和也)

◆①異国の教員のお人柄までお調べくださり, 知らないことをたくさん教えていただき, ありがとうございます。異国のことを知ることは, 自国のことをわかることでもあり, 誠に意義深いと思われました。(Thanks)

◆①まずは台湾英語教科書史研究による博士号の取得、誠にありがとうございます。このたびのご発表もその一環かと思いますが、台湾の英語教科書を題材論の視点から徹底的に深掘りされたご研究で、学びが多かったです。特に、日本軍に逮捕・拷問された体験を持つ著者が、なぜ日本関係の題材を取り入れたのかなど、謎解きのような知的興味を持ちました。今後、言語材料面や、他の教科書との比較（特に歴史的比較）などへと発展されると、今回取り上げられた教科書の位置がより鮮明になると思いました。(みかん舟)

◆①非常に丁寧な調査を通し、英千里の教育理念や哲学が教材にどのように反映されているかについて一定の見解が示され、とてもよく興味深く拝聴いたしました。教材分析を行うにあたって、著者の人物像を掘り下げることの重要性を改めて感じました。英千里の教科書では「自然科学系での優れた題材を日本の教科書から引用」していたとありましたが、その題材の選定が英千里によるものであったならば、彼の広い見識が改めて垣間見えるところではないかと思いました。(ポレポレ)

◆①台湾の教育については全くと言っていいほど無知でしたので本日の講演は非常に参考になり興味深く拝聴させていただきました。

また、一人の人物に焦点を当てて深く掘り下げて緻密によく研究されているところに感服いたしました。「一人の人物に焦点を当てる」という点が自分の論文に通じるところがあり、論文の構成法など参考になりました。

博士課程を取られた方の研究発表を拝聴させていただくのは、自分の論文指導の拓殖大学大学院 保坂芳男教授以外は初めてだったため良い勉強になりました。

教育とは「人」をつくることだと改めて実感させられる内容でした。

「人」としてあるべき姿はどういうものなのか、徳を持った人が人々に与える影響とはどういふものなのか、人間の心は国境をも越え、真の人の心は通じるものである。心あつての人。そして、その「人」を育てるのが教育であり、「国」を作るものになる。講演を聴きながら「人」を作る教育の重要性を改めて感じました。本日は貴重な講演を誠にありがとうございました。(橋本倫子)

◆①シェイクスピアを除いて全て自然科学系の題材であったというのが大変興味深かったです。なぜ自然科学が題材の中心であったのか。時代背景からなのか、社会情勢からなのか、あるいは英の英語教育に対する課題意識からなのか。その理由が気になりました。(Koyamamoto)

◆①英語の教科書にもかつての宗主国の影響が見られることに考えさせられた。(jh4dgv)

◆①ご発表後の質問にもありましたが、英千里の教科書が言語学に基づいているとのことについて、その言語学というのがどの学派のものなのか、やはり気になります。時代を考えるとアメリカ構造言語学の可能性もあり、また、英の留学歴を考えるとロンドン学派の *Firthian linguistics* の可能性もあり、教科書の内容に照らして、この点を明らかにしていただければと願っております。また、日本の教科書からも教材を採っていることについて、語学書出版社とは言え、検定英語教科書会社としてはマイナーと言ってよい大学書林のものから採られていることについては、その経緯をぜひ明らかにしていただきたく思います。今回のご発表においてわが国との接点という点で大きな意味を持ちますので。なお、発表資料の参考文献のタイトル中、日本語の「～と」にあたる「與」の字が「興」と誤っていますので、ご確認おきください。

(Dragon)

◆①教科書編者と題材内容との関係についての詳細な調査を興味深くうかがいました。教科書をより深く理解しようとするとき、人物を研究することの重要性が増すと印象を強く持ちました。私もこの視点から、これまでに関わった歴史的な教科書を読み返してみようと思います。ありがとうございました。(Horse)

<発表 2 の感想>

◆②写真で追う戦後日本英語教育史の一端に興味深く拝見・拝聴しました。指定討論者の馬本先生が「個人アーカイブとしての価値」と評されたことに首肯しました。こうした個人史の出版がなされることによって広がる世界を想像するだけでワクワクした次第です。(might)

◆②1960年代から70年代に小中高で学びましたので、当時の教具を懐かしく思い出していました。上野先生の質問もありましたが、学習者として教材を保存しておくことの重要性も実感しています。(久保野雅史)

◆②「いついつに〇〇があった」などを記録として残すという歴史学研究を改めて知ることができました。昨今ではその意義が軽んじられているきらいがあると思っておりますが、残すからこそ、それを使って語ることができる、と思っております。歴史学研究の重要性を改めて噛み締めたいと思います。(孫工季也)

◆②私が生まれるよりもずっと昔の学校教育で使用された機器の話は今大学で自分達が模擬授業で使用している機器と見比べることができ歴史の流れとともに機器と教授法は変化し続けていると感じました。(吉村和也)

◆②今までの御活躍に感謝申し上げます。これからの英語教育について、客観的な視野をお持ちのことと思います。ますます、ご活躍をお祈り申し上げます。(Thanks)

◆②豊富な写真を交えたご発表がとても面白く、また山田先生の芯の通った教育観を感じました。たとえば、JETプログラムが日本の貿易黒字を減らすためだったのに、あたかも教育目的であるかのように偽装された点のご指摘など、共感しながら拝聴しました。どれも丹念な調査研究に基づく論文集ですが、特に驚嘆したのは論文24です。小学校で英語を学んだ生徒と、そうでない生徒が、中学、高校、大学入試へと進んだ際に、テスト成績(偏差値)において変化がないことを実証されています。こうしたエビデンスに基づいて政策を立てるべきなのに、そうはなっていません。学校現場からの声を、地道な調査研究で裏打ちして発信することの大切さを感じました。すばらしいご発表でした。(みかん舟)

◆②当時の最新とも言える教育機器を巧みに用いながら、精力的に教育の実践・研究を行なわれていたことに敬服いたしました。また、「個人のアーカイブ」についての言及がありましたが、大学時代からの論考をずっと保管されていたことにも驚きました。その当時だからこそそのアイデアや思想、熱意というものがあると思っておりますので、それをしっかりと保存することの重要性について、今回学ばせていただきました。ありがとうございました。(ポレポレ)

◆②自身の実践、研究をこれほど残されていることに感銘を受けました。また、自身の県で行われてきた英語教育についてどの程度まとめられているのかについても興味が湧きました。これを機に調べて見ようと思います。ありがとうございました。(Koyamamoto)

◆②長年にわたる豊かな実践と研究の集大成を熱く語ってくださった山田先生に感謝いたします。生徒の目の輝きに応えようとしてこられた先生の、飽くなき探究心の詰まった『論文集』

を何度も参照しながら、自らの実践を振り返りたいと思います。ありがとうございました。  
(Horse)

◆②温故知新。僭越ながら私も大事にしている言葉です。古くてもいいものは、しっかり後世に残すべきだと思います。そしてそれをするのが教師の役割であると。文法をしっかり学び、英文を音読し暗唱する。ある時期集中して時間をかけなければ語学はものにならないこと。西洋人が英語を学ぶようには日本人が英語を学ぶことができないのは英語の構造上の問題があること。脱線してもいい、英語を学ぶことが楽しいと生徒、学生に思ってもらえるような授業をすることが教師には望まれると。私も常日頃英語の学習について感じていたことです。文法軽視論、会話中心主義など騒がれる中、私が感じていることを次から次へと先生の親しみのある心に響く話し方で語られると、自分の考えていたことは間違いではなかったと背中を後押しされたようで自信が持てました。

私が高校の時は残念なことかな、教師に英語を学ぶことの楽しさを授業で味わうことはありませんでした。その意義やおもしろさを味わわせてもらったのは予備校の講師陣でした。山田先生のような先生に私も教えを乞うことができたならよかったなと思いました。

質問の仕方に見られる生徒への気配りなど、さすが長い間現場教師としてご活躍されてこられたのだと感銘いたしました。本日は貴重なお話を誠にありがとうございました。(橋本倫子)

◆②ご高著をご恵贈に与って拝読した時には味わえなかった OHP 収納・運搬用ケースの自作や、授業分析に用いるカテゴリー分析器の製作などのワクワクするお話を、写真や現物のご提示もあって、興味深くうかがいました。中学・高校に教鞭をとられた際に、新しいことに取り組みおられたことに今更ながら敬服するとともに、次の機会には、そのような英語教師への道を歩まれることに方向付けを与えたご自身の英語修学歴の詳しいお話をご披露下さればと期待し、お願いするところです。(Dragon)

#### <会全体に関する感想>

◆③全国大会にもつながる例会内容でした。企画力に感服です。(久保野雅史)

◆③お若い先生方の現時点までの私的アーカイヴについても知りたく存じます。(孫工季也)

◆③今回初めての英語教育史学会に参加させていただきました。定例会の雰囲気がとても伝わりました。今後大学院に進学することを考えているためこのように zoom での参加は初めて学会に行くのは緊張しますが zoom で参加することができるため緊張なく参加することができよかったです。(吉村和也)

◆③英語教育史には疎いですが、馬本先生のまとまった Summary はわかりやすく とても良いと思いました。ありがとうございます。(Thanks)

◆③トラブルもなく、円滑な運営に感謝申し上げます。オンライン懇親会も大切ですね。とはいえ、早く対面での懇親会ができますことを願っております。学会は society ですから。なお、大会の田崎講演は大々的に宣伝し、参加者、会員を増やしましょう。(みかん舟)

◆③いつも学びのある場を発表者であるかにかかわらず提供いただいていることに心より感謝いたします。発表者の方のお言葉にもあったかと思いますが、非常に温かな学会であるということも感じております。全ての関係者様に感謝いたします。(ポレポレ)

◆③書物などを通してのみ存じ上げておりました英語教育史関係の先生方々が、画面の前におられるだけで緊張いたしました。稚拙なことは感想としても言えないようなすごい場所に参加

しているのだと思ってしまいました。本日の研究例会に参加させてくださり誠にありがとうございました。論文作成、研究発表、日頃の取り組み方など大いに参考になりました。ありがとうございました。(橋本倫子)

◆③早く対面での研究例会ができることを祈っています。特に懇親会！(jh4dgv)

---

<発表を終えて>

平井 清子 (北里大学)

この度「英千里編教科書研究—台湾と日本の繋がりとその背景にあるもの」というタイトルで発表をさせていただきました。英千里は戦後台湾初期の円熟期である 1960 年代に、国立台湾大学で教鞭を執る傍ら、教科書や辞書の編纂をはじめ英文学の作品の翻訳を手掛け、その後の台湾英語教育の礎を築いた一人です。

本発表では、英千里の教科書の特徴の一つとして挙げられる以下の日本との繋がり①当時は珍しい日本文学であるハーンの「青柳」を取り扱ったこと、②日本人捕虜となった米兵と日本人上官との心の交流を描いた「Baggy Pants」が扱われていること、③日本の大学書林のシリーズ (1950 年代出版) からの引用転用の多いこと、について分析し、その要因を英千里の教育哲学から分析することを試みました。とりわけ、英千里が 13 歳から 24 歳までヨーロッパで教育を受けたこと、抗日運動により二度にわたり日本軍に拘束された経験を持つことなどから、世界観・教育哲学を分析しました。

台湾の当時の教科書が属人的であるにしても、どの程度それを要因と結びつけることが可能か、どこまで掘り下げるべきかなど、発表後の先生方との問答で教えていただくことは多くありました。質疑応答でご指摘をいただいたように、教科書の練習問題や語彙・文法の指導にも特徴があるので、今後は言語材料の研究も進めたいと考えております。

台湾英語教育に貢献した個人と英語教育との関わりを深く探るとき、日本英語教育史との関わりにより一歩踏み込むことで、別の角度での台湾英語教育史研究が可能ではないかと考えます。この他、先生方からいただいた貴重なコメントに感謝いたします。

---

<発表を終えて>

山田 昌宏 (本学会会員)

第 287 回研究例会において、発表の機会をいただきありがとうございました。また、指定討論者の馬本勉先生には、丁寧で適切なご指摘を賜り、感謝にたえません。

発表に当たって何を話すか迷いました。この論文集は過去 60 年近くの間には発表したいろいろな分野のものが入っているからです。考えた末、私の興味が強かった視聴覚機器、コンピュータ、指導法、英語教育史を中心に話すことにしました。できるだけ具体的に示すために画像や動画を入れようと思いましたが、Zoom でリハーサルを試みたところ、私の使用ソフトのバージョンが古いせいか、動画が作動しませんでした。やむを得ず動画はすべてカットせざるを得ませんでした。以前、対面で行われた第 259 回研究例会において発表したときには、自分のパソコンを持ち込んだので支障なく作動しました。その意味でも早く対面での研究例会等ができる日を心待ちにしています。

発表内容については、当初予定した内容で時間を計ると 1 時間を超えてしまい、大幅に削ることになり、どれも中途半端になった感が否めず、反省しています。

拙い内容でしたが熱心にお聞き下さり本当にありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。

---

<発表を終えて>

馬本 勉 (県立広島大学)

山田昌宏先生の「自著を語る」に際して司会進行を担当し、「山田昌宏『私の歩み(喜寿記念論文集)』に見る個人アーカイブの可能性」と題する指定討論を行いました。42 篇の論考・資料からなる『私の歩み』の特徴を論じる中で、教育機器に造詣の深い山田先生の研究を特徴づける(そして私のこれまでの研究テーマにも通じる)「授業分析」と「コーパス研究」にまず焦点を当てました。次に私が注目したのは、先生の実践・研究の総まとめとも言える論考「英語教育の基礎・基本:英語教育への私見」と「ノートルダム清心女子大学における英語教材展示書籍等一覧」でした。この 2 篇をもとに『英語教育史資料にもとづく英語科教育法』といった教科書ができるのではないかと、という期待も膨らみます。

今回の「自著を語る」は、昨年全国大会の参加型シンポジウムで協議した「アーカイブの重要性」を強く意識させてくれるものでした。山田先生の『論文集』のように、私たち各々の研究と実践記録からなるアーカイブを作っていくことが、今後の英語教育研究を推し進める鍵であると痛感しました。

---

## >> 事務局より

### >> 2021 年度第 3 回定例理事会を開催

第 287 回研究例会に先立ち、2020 年 3 月 19 日(土)11 時より Zoom を用いてオンラインによる理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

#### 1. 第 38 回全国大会について

→実行委員長の提案を受け、運営の詳細およびプログラムを確定しました(詳細は 7~8 ページ)。

#### 2. 2021 年度会計について

→事務局より中間報告をしました。年度末処理ののち、会計監査を経て 5 月の会員総会で最終的な報告をします。

#### 3. 紀要第 37 号について

→編集・発行の進捗状況について確認しました。例年通り 5 月に刊行の予定です。

#### 4. その他

→大会・例会の感想フォームについて:ご参加のみなさまの利便性を考え、新年度より感想はフォームに入力していただくこととしました。第 287 回研究例会から試験運用を開始しています。

## 》 名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、4月中旬をめぐり、すべての会員のみなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。お忙しい時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、よろしくご協力ください。

なお、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。会計処理の不便により、事務局からのお願いが遅れたみなさまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

## 》 今年度の紀要と会費について

今年度の紀要は、全国大会終了後に事務局より「スマートレター」で発送します。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封しますので、よろしくご協力ください。なお、昨年度(2020年度)までの会費が未納の方には紀要はお送りせず「会費納入のお願い」のみを郵送します。

昨年度より会員名簿は発行していませんが、ご希望の方には簡易製本によるものをお送りしますので、「名簿原票」確認の際にお申し付けください。

紀要に論考が掲載された方には抜刷をお送りします。昨年度から印刷会社に発送を依頼していますが、事務局からお送りする紀要の本冊よりも早く届きますのでご承知おきください。

(文責：事務局)

---

## 日本英語教育史学会第 38 回全国大会 ぜひご参加ください

第 38 回全国大会は、下記の通り、オンラインで開催いたします。記念講演、研究発表に加え、前回と同様「参加型シンポジウム」を企画しております。皆様どうぞ奮ってご参加ください。オンラインでお目にかかれますことを楽しみにしております。

期 日：2022 年 5 月 14 日 (土)・15 日 (日) ※14 日 (土) は午後のみ開催

会 場：Zoom を利用したオンライン開催

参加費：無 料

## 》 参加方法

学会ウェブサイト (<http://hiset.jp/>) から、**5 月 9 日 (月) までにお申込みください**。ご参加の皆様には、Zoom ミーティングの ID とパスコードを 5 月 12 日 (木) に事務局よりお知らせいたします。なお、参加申込みが 300 に達した時点で受付を終了いたしますので、お早めにお申込みください。

## 》 プログラム

詳細につきましては、学会ウェブサイトをご覧ください。

## >> お問い合わせ

次のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

大会実行委員会 [taikai@hiset.jp](mailto:taikai@hiset.jp)

## >> この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 288 回研究例会      2022 年 7 月 16 日 (土)      オンライン開催
- ◆ 第 289 回研究例会      2022 年 9 月 17 日 (土)      オンライン開催
- ◆ 第 290 回研究例会      2022 年 11 月 19 日 (土)      オンライン開催
- ◆ 第 291 回研究例会      2023 年 1 月 7 日 (土)      オンライン開催
- ◆ 第 292 回研究例会      2023 年 3 月 18 日 (土)      オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (9 月発表希望であれば 6 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: [reikai@hiset.jp](mailto:reikai@hiset.jp)

## >> 新入会員

- ◆ 柁木 貴之 (まさき たかゆき)    北海道    北海学園大学
- ◆ 大石 海 (おおいし かい)      東京都    東京大学大学院生
- ◆ 外山 徹 (とやま とおる)      東京都    順天堂大学

## >> 英語教育史フォルダ

- ◆ 広川 由子『戦後期日本の英語教育とアメリカ新制中学校の外国語科の成立』が大修館書店より刊行された。定価は 4,180 円 (税込)。
- ◆ 下 絵津子『多言語教育に揺れる近代日本：「一外国語主義」浸透の歴史』が東信堂より刊行された。定価は 3,520 円 (税込)。
- 新入会員の柁木貴之氏が「国語教育と英語教育をつなぐー「連携」の歴史、方法、実践」の業績により「東京大学而立賞」を受賞された。

**EDITOR'S BOX** 前回会報発行時 (2 月 1 日) からこれまで様々なことが起こりました。まずは新型コロナウイルス・オミクロン株の感染急拡大です。しかも現在はより感染力が強いとされるオミクロン株「BA.2」に置き換わりつつあります。/2 月 24 日にはロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。戦争自体もそうですが、原発への攻撃や市民の虐殺など、21 世紀とは思えないような事態が続いています。一日も早い終戦を祈るばかりです。/東北では 3 月 16 日に最大震度 6 強の地震が起き、東北新幹線は現在でも運行できない区間があります。11 年前の東日本大震災を思い出した方も少なくないと思います。/「平和な日常」の有難さを痛感する日々が続きますが、どうかご自愛下さいませよう。(若)